

(1) 研究課題名 平成25年度特別研究「看護職の仕事と生活の調和に関する研究」

研究代表者 看護学科 村上眞須美¹
 研究メンバー 看護学科 上泉和子¹、清水健史¹
 戸沼由紀¹
 大崎瑞恵²

1:青森県立保健大学 2:福島県立医科大学

1. 研究の背景

厚生労働省は、平成23年から「看護師等の雇用の質向上」に取り組んでいる。医療を支える人材の定着や育成を図るためには、仕事と生活のバランスを取り、働き続けることができる環境の整備が必要となる。各施設で仕事と生活の調和を図りながら働くための取り組みを行っているが、看護職の現在の状況を様々な角度から測定する尺度がなかった。

そこで、病院に勤務する看護職を対象とした**仕事と生活の調和がどの程度実現しているのか測定する尺度**を開発した。しかし、看護職は、病院以外の様々な施設で勤務しているため、病院以外に勤務する看護職を対象にした尺度の開発が必要を感じた。

様々な施設で勤務する看護職を対象にした尺度を開発することで、看護職全体の仕事と生活の調和の現状を把握でき、看護管理者のマネジメントに活用できると考える。

【看護職の仕事と生活の調和実現度尺度】

5因子28項目で構成されている5段階尺度。

〈因子名〉

- ①時間の調整
- ②仕事のやりがい・職場の支援
- ③仕事以外の過ごし方
- ④家庭での過ごし方・家族の支援
- ⑤仕事とプライベートの切り替え

2. 研究目的

「看護職の仕事と生活の調和実現度尺度」を多様な職場で勤務する看護職に活用できるツールとして精錬する。

インタビュー対象者:A・B・C県の各施設に勤務する看護職計22名

診療所3名、老人介護保健施設4名、特別養護老人ホーム4名、訪問看護ステーション6名、保健所5名

3. 研究計画

平成24～25年度:病院以外で勤務している看護職へ半構成的インタビューを実施

平成26年度:インタビュー結果から尺度を再構成し、予備調査を実施する。

平成27年度:再検討した調査用紙を用い、本調査を実施する。

4. 研究方法

①診療所、老人介護保健施設、特別養護老人ホーム、訪問看護ステーション、保健所に勤務する看護職にインタビューを実施する。

②逐語録を作成し、仕事と生活の調和実現に関連する要素について抽出し、尺度の下位項目を検討する。

5. 研究活動内容とその成果

【結果】

- ・病院に勤務する看護職を対象とした尺の下位項目は、どの施設に勤務する看護職にも当てはまる内容であった。
- ・新たに、看護職のWLBに関連する4つの項目が抽出された。

6. 今後の展望

この結果をもとに、各施設に勤務する看護職を対象に予備調査を実施中である。調査結果をもとに尺度項目の精錬を図る。